

平成 24 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名

助産師の職業性ストレスと分娩業務における負担感の関連

学位の種類： 修士（看護学）

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号 11894605

氏名：佐藤 香

（指導教員名： 安達久美子 ）

目的：本研究は、分娩介助業務に従事する助産師の職業性ストレスの実態及び、助産師の分娩業務の負担感を示し、助産師の職業性ストレスと分娩業務の関連を明らかにすることを目的とする。

方法：首都圏近郊の分娩取扱い 564 施設のうち許諾を得た 90 施設（16.0%）の分娩業務に従事する助産師 1397 人に属性 8 項目と職業性ストレス簡易調査票 57 項目、分娩業務における負担感 65 項目で構成した自記式質問紙を用いて調査した。分析は、属性と分娩業務における負担感の項目を説明変数とし、職業性ストレス簡易調査票の各尺度を従属変数にして多重ロジスティック回帰分析を行った。

結果・考察：回収数（回収率）は 606 人（43.4%）であり、無効解答や対象外を除外した 556 人（39.8%）を分析対象とした。職業性ストレス簡易調査票では各尺度の得点結果からを低群・普通群・高群に分けた。ストレス要因では高群が【質的負担】442 人（79.5%）、【身体的負担度】513 人（92.3%）と多かった。ストレス反応では高群が【イライラ感】133 人（23.9%）、【疲労感】193 人（34.7%）、【抑うつ感】129 人（23.2%）、【身体愁訴】137 人（24.6%）であった。職業性ストレスと分娩業務の関連では「妊娠経過から分娩時のリスクを予測すること」と【抑うつ感】との関連、「多忙で産婦の観察ができないこと」と【量的負担】、【質的負担】との関連、「分娩記録を勤務時間内に終わらせること」と【量的負担】、【身体的負担度】、【職場環境ストレス】、【疲労感】、【抑うつ感】、【身体愁訴】との関連、「（産婦を担当しながら）担当している別の産婦の胎児心音異常の対応をすること」と【イライラ感】、【身体愁訴】との関連がみられ、分娩時のリスクの予測、多忙により産婦の観察ができないこと、記録量、複数産婦の担当が職業性ストレスに影響することがわかった。

結論：助産師は【質的負担】は 8 割、【身体的負担度】は 9 割が高群を占め、ストレス反応は 2 から 3 割の助産師が高く呈している。多忙により産婦の観察ができないことや、複数産婦の受け持ち時の急変の対応、記録量の多さが職業性ストレスと関連することが判明し、助産師配置の定数化や記録の軽減など、業務内容の整理が必要なことが示唆された。